

“Pancreatic Mucoepidermoid Carcinoma” Is not
a Pancreatic Counterpart of CRTC1/3-MAML2
Fusion Gene-related Mucoepidermoid Carcinoma of
the Salivary Gland, and May More Appropriately
be Termed Pancreatic Adenosquamous Carcinoma
With Mucoepidermoid Carcinoma-like Features

佐伯, 潔

<https://hdl.handle.net/2324/2236109>

出版情報 : Kyushu University, 2018, 博士 (医学) , 課程博士

バージョン :

権利関係 : Public access to the fulltext file is restricted for unavoidable reason (2)



(別紙様式2)

氏 名	佐伯 潔			
論 文 名	“Pancreatic Mucoepidermoid Carcinoma” Is not a Pancreatic Counterpart of CRTC1/3-MAML2 Fusion Gene-related Mucoepidermoid Carcinoma of the Salivary Gland, and May More Appropriately be Termed Pancreatic Adenosquamous Carcinoma With Mucoepidermoid Carcinoma-like Features			
論文調査委員	主 査	九州大学	教授	岩城 徹
	副 査	九州大学	教授	加藤 聖子
	副 査	九州大学	教授	中川 尚志

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

膵管状腺癌の亜型として腺扁平上皮癌(ASC)があり、その中に唾液腺粘表皮癌(Sal-MEC)と同様の組織像を示すものがある。そのため膵粘表皮癌(Pan-MEC)は膵腺扁平上皮癌の同義語として認識されている。一方、唾液腺粘表皮癌ではCRTC1/3-MAML2融合遺伝子特徴的に生じることが知られており、肺気管支や子宮頸部の粘表皮癌でも、この融合遺伝子が見つかった。そこでSal-MEC様の形態を有する膵ASCにおけるCRTC1/3-MAML2融合遺伝子の有無とムチンの表現型などをSal-MECと比較検討することによって、両者の類似点や相違点を明らかにするために研究を行った。研究対象として16例のPan-MECとMEC様の特徴を有さない膵腺扁平上皮癌(ASC-NOS) 21例を含む37例の膵ASCを後ろ向きに解析し、(1)臨床病理学的特徴、(2)RT-PCRによるCRTC1/3-MAML2融合遺伝子の有無、(3)蛍光in situ hybridization(FISH)によるMAML2遺伝子の再構成の有無、(4)免疫組織化学染色による粘液コア蛋白に関して調べた。その結果、Pan-MECとASC-NOS間で臨床病理学的特徴および生存解析において有意差は認められなかった。注目すべきことに、膵ASC(Pan-MECおよびASC-NOSを含む)は通常型膵腺癌よりも有意に活動性の高い腫瘍であった。Pan-MECは全て組織学的にhigh-gradeな腫瘍であった。Pan-MECを含むいずれの膵ASCにおいてもCRTC1/3-MAML2融合遺伝子およびMAML2遺伝子再構成は認められなかった。Pan-MECとSal-MECの間でMUC5ACとMUC6において有意差が認められたが、Pan-MECとASC-NOSの間には粘液コア蛋白の発現に有意差は認めなかった。以上の結果より、Pan-MECはCRTC1/3-MAML2融合遺伝子を有さず、Sal-MECと異なり高悪性度の腫瘍であり、CRTC1/3-MAML2融合遺伝子関連Sal-MECの類似腫瘍ではないことが明らかとなった。

以上の成績はこの方面の研究に知見を加えた意義あるものと考えられる。本論文についての試験はまず論文の研究目的、方法、実験成績などについて説明を求め、各調査委員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったが概ね適切な回答を得た。なお本論文は共著者10名であるが、予備調査の結果、本人が主導的役割を果たしていることを確認した。

よって調査委員合議の結果、試験は合格と決定した。